

「旧林愛作邸」を現位置に保存するための保存範囲に関する考え方
令和7年2月28日（金）説明会 後藤治教授（工学院大学）コメント要旨

ただいまご紹介いただきました、工学院大学の後藤と申します。

現地保存ではなく移築でもよいのではないか、という話が出ていると伺っておりますが、移築は文化財保存においては最後の手段といえます。取り壊されて記録保存しかできない建物が相当数ありますが、最終的にやむを得ない場合に移築保存されています。ライトの作品では、帝国ホテル玄関は移築されて残っていますが、現地で残せる方が文化財として価値が高くなることは、おわかりいただけると思います。

旧林愛作邸が、ライト建築というところに特殊な面もあります。自由学園明日館も、今でこそ池袋に残され多くの人が見ることができ、活発に利用されていますが、重要文化財指定の前には、現地で残すか、学園の本拠地である東久留米に移築するか、解体して記録保存するか、色々と検討されました。その際、アメリカからライト財団の方や州の文化財担当者が来日され、文化庁の担当者であった私に対応いたしましたが、現地保存するべきであると、強くおっしゃられました。アメリカでは、移築すると文化財として認めないことになっています。日本の場合、木造建築の解体移築は歴史的に一つの手法になっています。アメリカにも、日本の文化財指定・登録と同様に、ナショナルレジスター（文化遺産登録制度）という制度がありますが、移築したものはレジスト（登録）されません。アメリカの方々には移築に抵抗があるということは、皆様にも意識していただきたいと思います。

ライト建築8件が、2019年にユネスコ世界遺産に登録されました。アメリカに残されている主要な保存状態の良いものが登録されていますが、芦屋市にある旧山邑家住宅（淀川製鋼所迎賓館）も世界遺産に加えられないかという交渉を、米国側と行っている聞いています。これまでは主屋だけが重要文化財でしたが、ライト建築は現地で環境とともに残されていることが重視されるため、昨年、主屋に加え、残っている附属建物が重要文化財に追加指定をされ、敷地部分も対象とするように変更されました。それは、世界遺産登録やアメリカの国際的な標準と擦り合わせしているということです。世田谷の旧林愛作邸が世界遺産になるかどうかは別として、先ほど説明のあった保存範囲の考え方については、アメリカの人達が見ても、保存されていると思ってもらえる範囲として作らせていただきました。

世界遺産の判断基準に、「オーセンティシティ」という言葉があります。本物らしさ、本物であるということを証明する、という言葉ですが、建築物の場合、オーセンティシティはデザインが残っており、マテリアル（材料）が残っていることになります。そのため、移築や修理により全部材料を取り替えていると、世界遺産にはなりません。ワークマンショップについては、ライトの建築物には該当しないかもしれませんが、伝統技術や昔ながらの作り方で残しているということです。もう一つ、セッティングという言葉があり、適当な日本語訳がないのですが、私は立地環境のようなことと解釈しています。旧林愛作邸においては、門衛所があってアプローチがあって、家に入ると向こうに眺望が開けていて、

横に木が植えられている。それがセッティングということなので、セッティングが残っていると見ていただける範囲として、保存範囲を設定したということです。

保存のために手間や犠牲を払うのであれば、国が全部お金かけてやればよい、と思われるかもしれませんが、日本に限らず世界的な傾向といえますが、公共機関が文化財を独占して公開だけをしているのは良いことではない、という考え方になってきています。保存したことによって、周りの地域が豊かになって持続性が生まれ、良いことがあるからこそ残す、ということが強調されるようになっていきます。私が今、文化審議会の文化経済部会で文化庁と検討しているのは、文化財を残すことが経済を圧迫するのではなく、文化と経済の好循環を生み、地域に利があるようにする、ということです。経済と言ってもお金の話ではなく、よい関係を生んでいくことが非常に大切で、単に残すだけではなく、地域が良くなることと重ねていこうという考え方になります。

保存するだけではなく、便益や地域に利がある施設もつくりながら、再生して使っていくという手法が今の主流ですから、旧林愛作邸も、文化財という違う世界の話であると思わず、どのような扱われ方、残され方をすると、より自分たちの暮らしに利があるのかという見方をしていただくことが大切になると思います。法務省旧奈良監獄は、現在星野リゾートが参画して、元の監獄をホテルにしようとしています。旧奈良監獄は奈良市の北の方にあり、比較的注目されてないエリアにあります。再生することにより、単に企業が儲けるということだけでなく、奈良のエリアにもプラスになるような施設を目指しています。また、星野リゾートに入ってもらうことによって、公の負担が大きく膨らまない形で残していけるように、という意図もあります。地域の皆さんにとって、旧林愛作邸がどのように使われたり公開されたりすれば、より自分たちのためにプラスになるか、というところまで積極的にも意見を言ってよいということも、ご理解いただければと思います。

簡単ですが、私からは以上とさせていただきます。